

致知

2008年2月号 目次
表紙の人・塚越 寛氏

誌名の由来 これは中国の古典『大学』に出てくる有名な言葉である。
『致知』とは人間本来の英知を明らかにし、現代人に欠ける『知行合一』の精神をいう。

●特集●

「将の条件」

●巻頭の言葉● ——— 2
世論を超えて決断する日
中條高徳
アサヒビル名誉顧問

●対談● ——— 8
『ローマ人の物語』に学ぶ将の条件
塩野七生 & 渡部昇一
作家
上智大学名誉教授

●インタビュー● ——— 20
いい会社をつくりましょう
塚越 寛
伊那食品工業会長

信念の人 サッチャーに学ぶ将の条件 ——— 28
中西輝政
京都大学教授

北条早雲の生き方が教えるもの ——— 34
小和田哲男
静岡大学教授

「インタビュー／将の条件」

① 歴史に道を問い
改革を断行したリーダーの胆識 ——— 38
山本 一元
旭化成常任相談役

② 勝利への熱い気持ちと感謝の心で
日本一のゴルフ部をつくる ——— 44
阿部 靖彦
東北福祉大学ゴルフ部監督

③ リーダーはろうそくになれ ——— 48
宮端 清次
はとバス社長

苦境を突破する『将』のあり方 ——— 54
—— 安倍晋三の辞任に学ぶ ——
屋山 太郎
政治評論家

●対談● ——— 60
『易経』に見るリーダーのあり方
伊與田 覺 論語普及会学監 & **竹村 亜希子** 易経研究家



中西輝政

「民衆が支持したのは、サッチャーの政策そのものではないだろう。
『いつ死んでも本望』という、捨て身で政治に臨んだ心意気に国民は感動し、支持したのである。
サッチャーが我々に教えてくれているのは、
国をよみがえらせるにはリーダーが『捨て身』になって自らの理念を説くことである」(P.32)



塩野七生

「カエサルは『多くの人は見たいと欲するものしか見ない』と言いました。
リーダーと一兵卒では見るものが違うかといったら、本当は同じです。
だけど一兵卒はその重要性に気づかない。いや、気づきたくないのです。
敵が来るなんて思いたくないから敵を見ない。
そこがリーダーとリーダーでない人の間に存在する、厳とした差ではないかと思います」(P.14)